

活動計画書 / 活動実施計画書

団体名： 大曽根まちそだて会議

1 組織の現況、課題

大曽根まちそだて会議は、商店街の理事を中心に大曽根地域でまちづくりに取り組む市民も一部参加し、2020年2月に設立した団体である。活動が続ける中で、会議体で大曽根地域でまちづくりに取り組む学生や地域住民も参加するようになり、アンケート調査や空き店舗調査、路上空間を活用した社会実験等の自主的な取り組みも生まれている。また昨年度から、歩いて楽しめるストリートづくりを行なっていくために路上空間活用の方法を考えるWSの開催や社会実験等も行なっている。PR活動においては昨年度の夏から、大曽根地域で行われているまちづくり活動を中心とした広報媒体「大曽根ニュースレター」を発行している。昨年度、「大曽根ニュースレター」は、1~2ヶ月間隔で各号1600部程度印刷して計5回発行し、六郷小学校区をはじめ4~5つの小学校区に配布している。大曽根地域においては、商店街イベントの際に周辺地区に回覧板がお願いできているため、元々築いている配布の流れを活かしてニュースレターを配布している。

私たちの考える「まちそだて」とは、そこに住む人が自分の住むまちに対して誇りや愛着を抱き、「今」を知り、「未来」を志向し、まちを育む心を抱くことである。

現状を踏まえて、私たちが課題と捉えていることは2つある。

課題の1つ目は、新たな「商店街の周辺に住む地域住民の方々」の参加が少ないことである。特に近隣に多く在住している「30代-40代のファミリー世帯」の参加が少ない。現在、参加人数も徐々に増えてきてはいるが、参加メンバーは元々大曽根地域のまちづくり活動に従事してきたメンバーと商店街のメンバーがほとんどである。取り組みを進めていくにあたって賛同が得られにくいことや、将来ビジョンの作成等多くの方が参加して欲しい取り組みにおいて参加が望めないことが課題である。

課題の2つ目は、大曽根まちそだて会議の取り組みが、大曽根地域においてあまり認知されていないことである。地域内において認知がされていないことにより、1つ目の課題でも言及したように取り組みに対する賛同が得られにくいことや、参加が多く望めないことが課題である。認知が広がっていない要因の1つとして、大曽根地域の情報もまとめられている商店街所有の「おおぞねモール」というWebページが、構成・デザイン面において大曽根地域について知りたい人の必要とする情報が明瞭にまとめられておらず、広報手段として機能していないことが挙げられる。

2 助成を受けようとする活動の目的

2つの課題をとらえ、大曽根まちそだて会議の地域内における認知や大曽根地域自体への関心を広げ、新たな地域住民の参加を促進することを目指す。地域住民の参加を促進することを通し、商店街の周辺に住む地域住民の方々が自分の住むまちに対して誇りや愛着を育むことを目的とする。これらの意識を育むことは、「将来ビジョンの作成」や「持続的なまちそだての取り組み」を目指していく上で必要だと考える。

3 活動による今年度の成果目標

- ・大曾根まちそだて会議の認知が、大曾根地域内外において広がること
⇒商店街所有の Web サイト「おおぞねモール」の閲覧数が増加すること
- ・大曾根まちそだて会議に参加する大曾根商店街周辺の地域住民が増えること
⇒令和 4 年度の全体会に参加した、近隣住民の方が 5 名増加すること（延べ人数）

4 助成を受けようとする今年度の活動内容

本年度は、大曾根周辺の地域住民の方々に対して認知拡大・参加促進を目指した広報活動として大曾根ニュースレター・Web ページの改善と 2 つの取り組みを考えている。

効果的に PR 活動を進めるため、PR 戦略に関する専門家の招聘を検討しながら以下の活動を行う。

- 1) 広報・PR の方針づくり 以下の 2) 3) を中心とした広告・PR を効果的に進めるため、ターゲットや方法、持続的な運用方法（広告収入等）を盛り込んだ広報・PR の方針づくり
- 2) 大曾根の情報・まちづくり活動等をまとめた「大曾根ニュースレター」を発刊（1600 部 1 ヶ月～2 ヶ月に 1 回）
- 3) 大曾根地域の情報もまとめられている、大曾根商店街・大曾根本通商店街が所有している「おおぞねモール」という Web ページの改善

5 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

- ・大曾根商店街、大曾根本通商店街の関係者
- ・民生委員、自治会等の地縁型コミュニティ

6 今年度の活動内容のスケジュール

年 月	活 動 内 容
2022 年 7 月・8 月	・広報・PR の方針づくり（目的・ターゲット・方法・運営） ・大曾根ニュースレター発刊 ⇒以降、1 ヶ月～2 ヶ月に 1 回のペースで発刊を続けていく
2022 年 9 月～11 月	・Web ページの改善
2022 年 12 月 ～2023 年 2 月	・Web ページの公開、運用状況に応じて順次修正

7 活動後、次年度以降の展望

今年度においては、「大曾根ニュースレター」の発刊は当該助成金により行っていくことを検討している。しかし次年度以降においては、大曾根地域の企業・商店・個人による協賛や、持続的な地域づくりのための『かせぐ』仕組みや仕掛けづくりによって発刊にかかる費用を捻出していくことを考えている。私たちは、今後「大曾根地域の将来ビジョン」を作成するなど、持続的なまちそだて活動を行なっていくことを目指している。将来ビジョンを作成するにあたっては、商店街の関係者だけでなく地域住民の声を反映しながら作成していくことは重要だと考えている。大曾根ニュースレターを通じて地域住民の方の参画や活動に対する認知を広げ、まちそだての取り組みに対して関心を持ってもらい、将来ビジョンの作成に伴う取り組みに参画してもらおう等、持続的なまちそだて活動を行うことをしてもらおうことを目指していきたい。

※ この様式は公開されます。